

都市型の地域医療をささえる
かかりつけ医を育てる

洛陽病院 一般内科/総合診療科 臨床再研修プログラム

Reskilling & unlearning program in
department of generalist medicine
Rakuyou Hospital

復職・キャリアチェンジ志望者募集中



1

指導医よりメッセージ



2

プログラムの概要

科目名	単位数	履修条件
臨床再研修プログラム	12	なし
臨床再研修プログラム	12	なし
臨床再研修プログラム	12	なし

3

プログラムの特徴



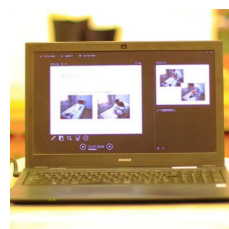
4

研修目標



5

教育方略詳細



6

臨床再研修プログラム応募手続き・
選考方法

プログラム案内

CONTENTS

指導医からのメッセージ

「都市型の地域医療をささえる」 かかりつけ医を目指してみませんか？



プログラム責任者 賀来 敦

医療法人寿尚会 洛陽病院 内科部長
日本プライマリ・ケア連合学会 代議員
日本医学教育学会 代議員

京都市街地の北端『岩倉』の地で当院は。「地域のかかりつけ病院」として、長年「入退院の支援」「時間外診療」「介護サービス等と連携した医療」を提供し続けてきました。

そんな当院の取り組みを後押しするように、いよいよ2025年4月から「かかりつけ医機能を持つ医療機関を患者が選択する際のサポート」や「地域全体でのかかりつけ医機能の充実を図る」ための報告制度（かかりつけ医機能報告制度）が始まります。

この制度の開始に先立って、洛陽病院は新しく『一般内科/総合診療科臨床再研修プログラム』を始めることにいたしました。

このプログラムは医師のキャリアチェンジや復職をサポートし、一般内科／かかりつけ医として必要な知識と技術を習得させるプログラムです。17診療領域のほとんどをカバーし、日常的な40程度の疾患に対応できて患者の相談に応じられるスキルの向上を支援しています。是非私たちと新しい都市型地域医療に取り組みながら、病棟型かかりつけ医として働いてみませんか。様々な事情で時間制約のある方でもやる気さえあれば安心して学べるようできるだけご相談にのりたいと思います。

一度見学に来てください。お待ちしております。

プログラムの概要

どのようなかた向けのプログラムか

- 基本的臨床能力をもう一度学び直したいと考えているかた
- 出産/育児のブランクからの臨床復帰を考えているかた
- 開業予定があり、その前に一通りのコモンディーズへの対応ができるようになりたいと考えているかた
- 専門医（スペシャリスト）からジェネラリスト（総合医）への転身を考えているかた

「専門医」から「ジェネラリスト」への転身

消化器内科、小児科、放射線科、麻酔科、泌尿器科、病理科、救急科、整形外科など様々な専門診療科に所属していた専門医の方の、ジェネラリストへの転身を本プログラムはサポートし、開業や地域病院勤務のお手伝いをします。

基本的臨床能力向上のための再学習

主に研究に携わってきた医師や、産業医活動や健診業務に従事してきた医師も、臨床能力の向上を目的としたプログラムを活用することが可能です。

出産・育児等によるブランクからの臨床復帰

医師になってまもなく出産および育児といったライフイベントがあり、基本的な臨床能力をトレーニングする機会を失っていた方や、出産・育児・介護のために臨床のブランクが生じ、臨床への復帰を躊躇していた医師をサポートします。

プログラムの目的と背景

医師の臨床再研修プログラムが必要となる背景には、出産や育児、介護などのライフイベントによるブランク、キャリアチェンジ、地域医療のニーズなどが挙げられます。・ライフイベントによるブランク出産や育児、介護などのライフイベントにより、臨床から離れる期間が生じることがあります。この場合、臨床能力の維持や最新の医療知識の習得が難しくなることがあります。

・キャリアチェンジ専門医からジェネラリストへの転身や、研究職から臨床医への復帰など、キャリアの方向性を変える医師もいます。これには新たなスキルや知識の習得が必要です。

・地域医療のニーズ地域医療においては、幅広い診療能力が求められます。特に開業や中小病院での診療に対応するためには、総合的な臨床能力が必要です。

臨床再研修プログラムの目的は、医師の「学びなおしRe-skilling」と「学びほぐしunlearning」を後押しし、キャリアの転換/中断後の復職・転職を支援することです。

プログラムの特徴

プログラムの内容と特徴

● 個別カスタマイズした研修/勤務プラン

個別ニーズに応じた研修/勤務プランを提供します。ライフイベントに対応した時短勤務や早出/残業免除にも対応します。定期的な振り返り（reflection）やカルテレビュー・360°評価・外来直接観察・症例レポート作成を通して、高い臨床能力と最新の医療知識の習得を支援します。

● ネットワーキングとロールモデルの紹介

他の医師や専門家とのネットワーキングの機会を提供します。また、経験豊富なロールモデルを紹介し、キャリア形成を支援します。

これらを通じて、医師が安心してキャリアチェンジや復職できるよう、包括的なサポートが提供されることがこのプログラムの特徴です。

週間スケジュール

● 就業時間内にカルテレビュー・勉強会の時間を確保します

● 週4回 フルタイム勤務の例

	月	火	水	木	金	土
午前	ミーティング		ミーティング	ミーティング	ミーティング	
	外来		病棟/救急	外来	病棟 指導回診	
午後	病棟		病棟	病棟/救急	病棟	
	カルテレビュー		勉強会/カンファ	カルテレビュー	カルテレビュー	

※救急：近隣施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設・グループホームなど）からの直接紹介・開業医からの入院依頼対応・2次/3次病院からの即日入院紹介・定期外来時間外の徒歩受診患者が中心です

研修目標

目指す医師像

都市型の地域医療をささえるかかりつけ医

本プログラムは、2年間での「日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医」の取得を推奨します。その後、総合診療特任指導医・日本プライマリ・ケア連合学会指導医の取得も可能です。

研修到達目標

✓ 一般目標

- 1) 今後進むキャリアパスを想定でき、計画できる。
- 2) 一般内科／総合診療外来の診療が行える。
- 3) 疾患別に緊急度の評価を行うことができ、対応・管理ができる。
- 4) プライマリ・ケア認定医取得に必要な疾患を経験できる。
- 5) 適切なプレゼンテーションができる。
- 6) 必要なタイミングで人に相談ができる。
- 7) 自分の体調管理や予定管理ができる。

✓ 形成的評価

- 1) 3ヶ月に1回面談し、問題点を修正する。
- 2) 一般外来診療／入院症例のカンファレンス。
- 3) 外来直接観察・ビデオレビュー
- 4) 360° 評価
- 5) 勉強会への参加
- 6) 指定症例のレポート

✓ 方略

- 1) 外来にて、一般内科外来（定期受診／初診）患者の診療を中心に行う。
- 2) 日勤帯の救急外来患者に対応をする。
- 3) 入院患者の担当医となる。
- 4) 院内勉強会や学会認定ワークショップに参加する
- 5) 病診連携を意識して、院外および院内に向けた講義や学会発表を行う。
- 6) 総合医育成プログラムを受講する。

✓ 総括的評価

- 1) 研修期間（2年間）を満了していること
 - 2) 1年目末に各職種からの360° 評価を受け、形成的評価に従った改善活動をおこなっていること
 - 3) 1年目末に外来直接観察を受け、形成的評価に従った改善活動を2年目に行っていること
 - 4) 指定8領域の詳細事例報告書を提出し合格レベルと判断されていること
①個人への健康増進・疾病予防 ②小児・思春期のケア ③高齢者のケア④終末期のケア⑤女性・男性のケア ⑥ リハビリテーション⑦メンタルヘルス⑧救急医療
 - 5) 臓器別の問題10領域（各2例ずつ）の簡易症例報告書を提出すること
①心血管系 ②呼吸器系 ③消化器系 ④代謝内分泌・血液系 ⑤神経系 ⑥腎・泌尿器系 ⑦リウマチ性・筋骨格系⑧皮膚 ⑨耳鼻咽喉 ⑩眼
- 2年目末の直接観察総括的評価をプログラム責任者から受け、診察内容とコミュニケーションでの評価で60点以上をとること

指定 8 領域の詳細事例判定基準

01_外来・入院診療での指導

ある患者において、健康増進、予防医学の両面からアセスメントし、長期的な視点で診療やケアの計画を立てると共に、一定期間の後に再評価も行っている。

02_幼小児・思春期のケア

小児期・思春期の患者において、必要不可欠な病歴、身体所見などの情報を網羅した上で、情報を整理して列挙しエビデンスやガイドラインに基づいて、妥当な診断、年齢・発達・社会背景を含めたマネジメントにつなげている。

03_高齢者のケア

生物医学・心理社会の両面から多面的、網羅的に情報収集した上で、高齢者ケアの特徴を踏まえて明確にゴールを設定し、妥当な診断や治療・マネジメントにつなげている。

04_終末期のケア

終末期に関するやり取りを患者本人か代理意思決定者で行った事例において、生物学的、疼痛を中心とした症状のコントロール、予後、家族の準備状況・療養環境・介護資源の評価を行い、よりよい終末期を迎えるための計画につなげている。。

05_女性・男性のケア

ウィメンズヘルスかメンズヘルスに特徴的な領域（性的問題を含む）において、ライフステージや社会的役割を考慮した上で、生物心理社会的にアセスメントを行い、妥当な診断やマネジメントにつなげている。

06_リハビリテーション

日常生活機能やQOLをアセスメントした上で、リハビリテーションの目標や処方につなげている。また、一定期間の後に介入に対する評価を行っている。

07_メンタルヘルス

ICDやDSMによる診断を行うと共に、心理社会的な背景を踏まえて妥当な治療やマネジメントにつなげている。また、一定期間の後に症状の変化を再評価し、振り返りにつなげている。

08_救急

短時間で病態が変化するような患者が受診したときに、重症度や緊急度を意識しつつアセスメント、マネジメントにつなげている。また、施設内外を含めた救急医療体制を俯瞰したり、継続診療とは異なる方法で行われる意思決定プロセスを分析したりしている。

教育方略詳細

01_外来・入院診療での指導

医療面接能力、基本的身体診察能力、鑑別診断能力、初期対応能力の向上を目指して、洛陽病院の一般内科医となり、外来／入院診療において総合診療/家庭医療指導医による指導のもと、On the Job Trainingを行ないます。

02_カルテチェック

診療能力の向上を目的とし、毎日、指導医によるカルテチェックを受けます。患者のプレゼンテーションを行い、指導医はそれに対して医学的な側面や患者背景などの心理社会的な側面からフィードバックを行います。

03_ポートフォリオ

日々の診療やカルテチェックをもとにポートフォリオを作成することで、自身の省察や振り返りを行います。年4回のポートフォリオデイではポートフォリオの作成について個別に指導を行います。また、年3回のポートフォリオ発表会では実際に作成したポートフォリオを発表し、議論することで、さらに学びを深めます。

04_院外研修

週に1単位の院外専門科研修を行うことができます。中小病院では経験が不足しがちな分野について短期に集中して学ぶことができます。

05_家庭医療カンファレンス

年4回実施。
省察を深めたい症例を選んで発表し、ディスカッションを通じて家庭医療の視点や考え方を学びます。

06_教育レクチャー・ワークショップ

かかりつけ医に必要な能力や、習得すべき診療技術・知識に関する講義や・ワークショップの受講機会を提供します。

07_メンタルヘルスサポート

キャリアの転換/中断後の復職・転職に伴うストレスや不安を軽減するためのメンタルヘルスサポートを提供します。カウンセリングやメンタルヘルスに関するワークショップが含まれます。

再研修プログラム応募手続き・選考方法

応募資格	既に医師国家試験に合格した者 2004年（平成16年）以後の国家試験合格者については、初期臨床研修修了者
募集人数	若干名
身分	非常勤
研修期間	2年
採用試験	書類選考（履歴書・エッセイ800字）／面接
応募締切	適宜
処遇	規定に応じて給与・福利厚生を支給

資料請求・お問い合わせ・研修お申し込み先

〒606-0017 京都府京都市左京区岩倉上蔵町143
TEL：075-781-7151
FAX：075-781-7156

医療法人寿尚会
洛陽病院



<https://rakuyohp.or.jp>
病院ホームページに
お問い合わせ・お申込みフォームあります

医療法人寿尚会
洛陽病院

〒606-0017

京都府京都市左京区岩倉上蔵町143

TEL. 075-781-7151

FAX. 075-781-7156



京都 洛陽病院

検索

携帯・スマートフォンからご覧いただけます。